

## グループワーク用 事例

これらの各ケースに記載されている内容は、特記事項等の記入の模範例や基本調査項目の選択基準を提示するものではありませんので、その点にご留意ください。

# 取扱注意

# 介護認定審査会資料

# 事例 1

合議体番号： 000001 No. 1

被保険者区分： 第1号被保険者 年齢： 68歳 性別： 女  
申請区分： 更新申請 前回要介護度： 要支援1

現在の状況： 居宅（施設利用なし）  
前回認定有効期間： 12 月間

## 1 一次判定等

（この分数は、実際のケア時間を示すものではない）

一次判定結果： 要支援1

要介護認定等基準時間： 25.6分

25 32 50 70 90 110 (分)



非 支 支 介 介 介 介 介  
1 2 1 2 3 4 5

食事	排泄	移動	清潔保持	間接	BPSD関連	機能訓練	医療関連	認知症加算
3.4	0.2	0.4	3.9	3.2	5.8	4.5	4.2	0.0

警告コード：

## 3 中間評価項目得点

第1群	第2群	第3群	第4群	第5群
88.7	97.0	100.0	99.3	54.6

## 4 日常生活自立度

障害高齢者自立度： A 1

認知症高齢者自立度： II a

## 5 認知機能・状態の安定性の評価結果

認知症高齢者の日常生活自立度

認定調査結果： II a

主治医意見書： II b

認知症自立度 II 以上の蓋然性：

状態の安定性： 安定

給付区分： 介護給付

## 6 現在のサービス利用状況（予防給付）

介護予防訪問介護（ホームヘルプサービス）	0 回 / 月
介護予防訪問入浴介護	0 回 / 月
介護予防訪問看護	0 回 / 月
介護予防訪問リハビリテーション	4 回 / 月
介護予防居宅療養管理指導	0 回 / 月
介護予防通所介護（デイサービス）	4 回 / 月
介護予防通所リハビリテーション	0 回 / 月
介護予防短期入所生活介護（ショートステイ）	0 日 / 月
介護予防短期入所療養介護	0 日 / 月
介護予防特定施設入居者生活介護	0 日 / 月
介護予防福祉用具貸与	0 品目
特定介護予防福祉用具販売	0 品目 / 6月間
住宅改修	なし
介護予防認知症対応型通所介護	0 日 / 月
介護予防小規模多機能型居宅介護	0 日 / 月
介護予防認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	0 日 / 月

## 2 認定調査項目

	調査結果	前回結果
<b>第1群 身体機能・起居動作</b>		
1. 麻痺（左一上肢）		-
（右一上肢）		-
（左一下肢）		-
（右一下肢）		-
（その他）		-
2. 拘縮（肩関節）		-
（股関節）		-
（膝関節）		-
（その他）		-
3. 寝返り	つかまれば可	-
4. 起き上がり	つかまれば可	-
5. 座位保持		-
6. 両足での立位		-
7. 歩行		-
8. 立ち上がり	つかまれば可	-
9. 片足での立位		-
10. 洗身		-
11. つめ切り	全介助	-
12. 視力		-
13. 聴力		-
<b>第2群 生活機能</b>		
1. 移乗		-
2. 移動	見守り等	-
3. えん下		-
4. 食事摂取		-
5. 排尿		-
6. 排便		-
7. 口腔清潔		-
8. 洗顔		-
9. 整髪		-
10. 上衣の着脱		-
11. スボン等の着脱		-
12. 外出頻度		-
<b>第3群 認知機能</b>		
1. 意思の伝達		-
2. 毎日の日課を理解		-
3. 生年月日をいう		-
4. 短期記憶		-
5. 自分の名前をいう		-
6. 今の季節を理解		-
7. 場所の理解		-
8. 徘徊		-
9. 外出して戻れない		-
<b>第4群 精神・行動障害</b>		
1. 被害的		-
2. 作話		-
3. 感情が不安定		-
4. 昼夜逆転		-
5. 同じ話をする		-
6. 大声を出す		-
7. 介護に抵抗		-
8. 落ち着きなし		-
9. 一人で出たがる		-
10. 収集癖		-
11. 物や衣類を壊す		-
12. ひどい物忘れ	ときどきある	-
13. 独り言・独り笑い		-
14. 自分勝手に行動する		-
15. 話がまとまらない		-
<b>第5群 社会生活への適応</b>		
1. 薬の内服	一部介助	-
2. 金銭の管理	一部介助	-
3. 日常の意思決定	特別な場合以外可	-
4. 集団への不適応		-
5. 買い物	全介助	-
6. 簡単な調理		-

### <特別な医療>

点滴の管理	気管切開の処置
中心静脈栄養	疼痛の看護
透析	経管栄養
ストーマの処置	モニター測定
酸素療法	じょくそうの処置
レスビレーター	カテーテル

## 認定調査票（特記事項）

## 概況

夫との 2 人暮らしだが、日中は一人で過ごしている。市外に在住する娘が 2 人いる。5 年前に脳梗塞を発症。糖尿病があり、内服治療中。夫の立ち合いのもと調査を実施。

## 1 身体機能・起居動作に関連する項目についての特記事項

1-1 麻痺等の有無, 1-2 拘縮の有無, 1-3 寝返り, 1-4 起き上がり, 1-5 座位保持, 1-6 両足での立位, 1-7 歩行, 1-8 立ち上がり, 1-9 片足での立位, 1-10 洗身, 1-11 つめ切り, 1-12 視力, 1-13 聴力

(1-1・1-2) 確認動作は全て行えた。関節の可動域制限はない。

(1-3) ベッド柵につかまり、ゆっくり寝返りしている。「2. つかまれば可」を選択。

(1-4) 布団をつかみ手や肘をついて加重すれば、ゆっくりだが起き上がることができた。「2. つかまれば可」を選択。

(1-7) 平坦な場所でも 5m 程度であれば、1 人で歩行できた。左足の運びが悪いため、すり足のゆっくりした歩行で不安定である。

(1-8) 近くの物につかまり手をつけば、立ち上がることができた。「2. つかまれば可」を選択。

(1-11) うつむくと気分不良になるため爪切りはできず、手・足とも夫に介助されている。「3. 全介助」を選択。

## 2 生活機能に関連する項目についての特記事項

2-1 移乗, 2-2 移動, 2-3 えん下, 2-4 食事摂取, 2-5 排尿, 2-6 排便, 2-7 口腔清潔, 2-8 洗顔, 2-9 整髪, 2-10 上衣の着脱, 2-11 ズボン等の着脱, 2-12 外出頻度

(2-2) 自宅内は、近くにあるものや壁につかまり 1 人で移動しているが、転倒することがある。

(2-3) 朝・昼・夜の食事の際、固形物で必ずむせるため、「2. 見守り等」を選択。

(2-5) 紙パンツと尿取りパッドを使用している。トイレに行き、失禁時は自分でパッドを交換。デイサービスでは職員が定時で誘導。頻度で「1. 介助されていない」を選択。

(2-6) 1 日 1 回トイレにて排泄。一連の行為は自分で行っているが、紙パンツに便が付着しているときがある。「1. 介助されていない」を選択。

(2-10・2-11) 時間はかかるが、自分で着脱している。「1. 介助されていない」を選択。

(2-12) 週 1 回デイサービス利用。月 1 回通院で帰りに夫と一緒に買い物。週 1 回他市の娘宅訪問。

## 3 認知機能に関連する項目についての特記事項

3-1 意思の伝達, 3-2 毎日の日課を理解, 3-3 生年月日を言う, 3-4 短期記憶, 3-5 自分の名前を言う, 3-6 今の季節を理解, 3-7 場所の理解, 3-8 徘徊, 3-9 外出して戻れない

(3-1) 言葉が聞き取りにくいときもあるが、自分の意思は伝達できた。日頃も同じ。

(3-2～3-7) 全て正答。日頃も同じ。

#### 4 精神・行動障害に関連する項目についての特記事項

4-1 被害的, 4-2 作話, 4-3 感情が不安定, 4-4 昼夜逆転, 4-5 同じ話をする, 4-6 大声を出す, 4-7 介護に抵抗, 4-8 落ち着きなし, 4-9 一人で出たがる, 4-10 収集癖, 4-11 物や衣類を壊す, 4-12 ひどい物忘れ, 4-13 独り言・独り笑い, 4-14 自分勝手に行動する, 4-15 話がまとまらない

(4-12) ゴミの分別を教えてもすぐ忘れ全くできないため、週 2 回夫がゴミを分別している。また、月に 1 回鍋こがしをする。「2. ときどきある」を選択。

#### 5 社会生活への適応に関連する項目についての特記事項

5-1 薬の内服, 5-2 金銭の管理, 5-3 日常の意思決定, 5-4 集団への不適応, 5-5 買い物, 5-6 簡単な調理

(5-1) 一連の行為は自分で行っているが、残薬があるため、「2. 一部介助」が必要。

(5-2) 少額の自己管理や計算を行っているため、「2. 一部介助」を選択。

(5-3) 食べたいものや着たい服など、日常的なことであれば自己判断して行動できるが、新しいことや突発的なこと、治療方針などは判断できないため、介護者の支援が必要である。「2. 特別な場合を除いてできる」を選択。

(5-5) 夫と買い物をしている。日用品・食料品など必要なものは夫が判断しながら購入している。「4. 全介助」を選択。

#### 6 特別な医療についての特記事項

6 特別な医療

特記する事項なし。

#### 7 日常生活自立度に関連する項目についての特記事項

7-1 障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）、7-2 認知症高齢者の日常生活自立度

(7-1) 家屋内は支えなしで 10m 程は歩行できるが、普段は家具や手すり等を伝いながら移動。下肢の上りは悪くすり足で歩行不安定。つまづきや転倒等もみられ、移動時の見守りや外出時の介助が必要な状態である。「A1」を選択。

(7-2) 食事や運動・内服等に声掛けを要す。「IIa」を選択。

## 取扱注意

## 介護認定審査会資料

## 事例 2

合議体番号： 000001 No.

2

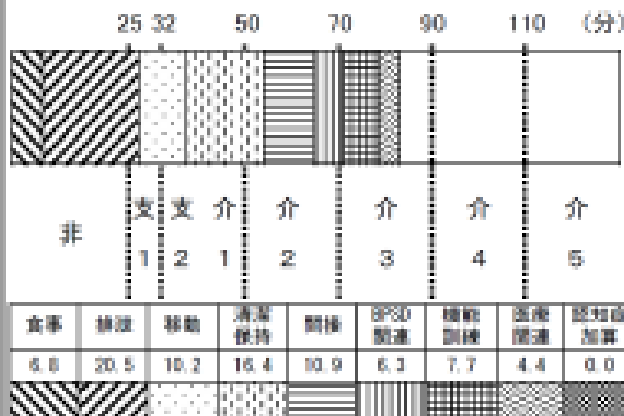
被保険者区分：第1号被保険者 年齢：70歳 性別：女  
申請区分：更新申請 前回要介護度：要介護3現在の状況：認知症対応型共同生活介護  
前回認定有効期間：12月間

## 1. 一次判定等

(この分数は、実際のケア時間を示すものではない)

一次判定結果：要介護3

要介護認定等基準時間：83.2分



警告コード：

## 3. 中間評価項目得点

第1群	第2群	第3群	第4群	第5群
51.5	64.2	100.0	85.3	19.8

## 4. 日常生活自立度

障害高齢者自立度：A1

認知症高齢者自立度：I

## 5. 認知機能・状態の安定性の評価結果

認知症高齢者の日常生活自立度

認定調査結果：I

主治医意見書：Ⅱa

認知症自立度Ⅱ以上の蓋然性：81.9%

状態の安定性：不安定

給付区分：介護給付

## 6. 現在のサービス利用状況(介護給付)

訪問介護(ホームヘルプサービス)	0 回/月
訪問入浴介護	0 回/月
訪問看護	0 回/月
訪問リハビリテーション	0 回/月
居宅療養管理指導	0 回/月
通所介護(デイサービス)	0 回/月
通所リハビリテーション	0 回/月
短期入居生活介護(ショートステイ)	0 日/月
短期入居療養介護	0 日/月
特定施設入居者生活介護	0 日/月
福祉用具貸与	0 品目
特定福祉用具販売	0 品目/6月間
住宅改修	なし
夜間対応型訪問介護	0 日/月
認知症対応型通所介護	0 日/月
小規模多機能型居宅介護	0 日/月
認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	31 日/月
地域密着型特定施設入居者生活介護	0 日/月
地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護	0 日/月

## 2. 認定調査項目

調査結果		前回結果
第1群 身体機能・起居動作		
1. 歩行(左→上肢) (右→上肢) (左→下肢) (右→下肢) (その他)	ある ある	-
2. 肉離(肩関節) (股関節) (肘関節) (その他)	-	-
3. 寝返り	できない	-
4. 起き上がり	できない	-
5. 座位保持	自分で支えれば可	-
6. 両足での立位	支えが必要	-
7. 歩行	つかまれば可	-
8. 立ち上がり	できない	-
9. 片足での立位	支えが必要	-
10. 洗身	全介助	-
11. つけ切り	全介助	-
12. 髪刈	-	-
13. 聴力	-	-
第2群 生活機能		
1. 起床	一部介助	-
2. 移動	一部介助	-
3. えん下	-	-
4. 食事援助	-	-
5. 排泄	一部介助	-
6. 排便	全介助	-
7. 日誌調読	一部介助	-
8. 洗頭	-	-
9. 髪型	-	-
10. 上衣の着脱	一部介助	-
11. ズボン等の着脱	全介助	-
12. 外出履度	-	-
第3群 認知機能		
1. 意思の伝達	-	-
2. 毎日の日課を理解	-	-
3. 生年月日をいう	-	-
4. 短期記憶	-	-
5. 自分の名前をいう	-	-
6. 今の季節を理解	-	-
7. 場所の理解	-	-
8. 排便	-	-
9. 外出して戻れない	-	-
第4群 精神・行動障害		
1. 被害的	ときどきある	-
2. 作話	ときどきある	-
3. 感情が不安定	-	-
4. 昼夜逆転	-	-
5. 同じ話を繰り返す	-	-
6. 大声を出す	-	-
7. 介護に反抗	ある	-
8. 落ち書きなし	-	-
9. 一人で出かける	-	-
10. 収集癖	-	-
11. 物や衣類を壊す	-	-
12. ひどい物忘れ	-	-
13. 繰り返し、繰り返し	-	-
14. 自分勝手に行動する	-	-
15. 話がまとまらない	-	-
第5群 社会生活への適応		
1. 家の片付け	全介助	-
2. 金銭の管理	全介助	-
3. 日常の意思決定	特別な場合以外可	-
4. 集団への不適応	-	-
5. 買い物	全介助	-
6. 簡単な調理	全介助	-

## ＜特別な医療＞

点滴の管理	実習期間の処置	-
中心静脈栄養	疼痛の看護	-
透析	経管栄養	-
ストーマの処置	モニタリング	-
酸素療法	じょうそうの処置	-
レスビレーター	カテーテル	-

## 認定調査票（特記事項）

## 概況

平成〇年〇月からグループホームに入所中。夫とは離別している。約 1 年半前に右大腿骨頸部骨折にて入院、手術。約 1 年前に退院した。施設内は、概ね歩行器につかまり移動できるが、パーキンソン病で身体状況に変動がある。理解力や短期記憶の大きな低下はないが、精神状態が不安定で管理面に介助を受ける。昨年より職員の介助を拒む等の行為がみられている。

## 1 身体機能・起居動作に関連する項目についての特記事項

1-1 麻痺等の有無, 1-2 拘縮の有無, 1-3 寝返り, 1-4 起き上がり, 1-5 座位保持, 1-6 両足での立位, 1-7 歩行, 1-8 立ち上がり, 1-9 片足での立位, 1-10 洗身, 1-11 つめ切り, 1-12 視力, 1-13 聴力

(1-1) 上肢は確認動作ができた。日頃も同様で「ない」とした。下肢は、床から 5cm ほどの挙上で確認動作はできなかった。日頃も同様で「ある」とした。

(1-2) 座位・臥位で確認動作を実施した。いずれも確認動作はでき、日頃も同様で「ない」とした。痛みの訴えもない。

(1-3) 試行しようとしたが、無言・無動で全く寝返りはできなかった。

(1-4) 試行では、無言・無動で全く起き上がることができなかった。

(1-5) 調査時は、右手で座面のマットをつかみ、左手でベッド柵をつかんで、10 分程度は保持できた。

(1-6) 不安定であり、サークル型の歩行器につかまって保持できた。日頃も同様で「支えが必要」とした。

(1-7) サークル型の歩行器につかまれば、左へ傾きながらも、ゆっくりと歩行できた。日頃も同様で「つかまれば可」。

(1-8) 試行では、無言・無動で全く立ち上がれなかった。日頃も筋力低下や筋固縮で、何かにつかまっても立ち上がれないことが多く、ほとんど職員がズボンの後ろをつかんで引き上げて立ち上がらせると聞き取り、「できない」とした。

(1-9) サークル型歩行器につかまれば、右足を床から 1~2cm 上げられたが、右足は上げられなかった。日頃も同様。

(1-10) 週 3 回シャワー浴。タオルを持たせても自分で洗えず、全て職員が洗うと聞き取り「全介助」。

(1-11) 指先に力が入らないため、手足の爪とも職員が切っている。

(1-12) 裸眼では見えないため眼鏡をかけてもらったところ、小さな文字が読めた。日頃も同様。

(1-13) 調査時、普通の声が聞き取れていた。日頃も同様。

## 2 生活機能に関連する項目についての特記事項

2-1 移乗, 2-2 移動, 2-3 えん下, 2-4 食事摂取, 2-5 排尿, 2-6 排便, 2-7 口腔清潔, 2-8 洗顔, 2-9 整髪, 2-10 上衣の着脱, 2-11 ズボン等の着脱, 2-12 外出頻度

(2-1) 職員がズボンの後ろをつかんで引き上げ、腰を支えて座らせることがほとんどであるため、「一部介助」とした。

(2-2) 施設内を歩行器につかまり移動するが、不安定なため常に職員がそばについて見守っており、職員が後ろから支える介助を行うときもあると聞き取り「一部介助」とした。

(2-3) えん下はできると職員から聞き取る。歯の治療を行っており、粥とキザミ食を食べている。

(2-4) スプーンを使って自分で食べていることが多いため、「介助されていない」とした。

(2-5) 日中はトイレ、夜間はポータブルで排泄。拭きのみ自分でっており、残りは職員の介助を受けているので「一部介助」とした。

(2-6) 緩下剤や座薬を使用しトイレで排泄、「全介助」を受けている。

(2-7) 自歯 2 本で義歯を使用。職員がブラシに歯磨き粉をつけると、自分で義歯を出し入れし自歯・義歯の洗浄を行う。

(2-8) 洗面台に寄りかかり、自分で顔を洗う。タオルもそばに置いてあるものを使用し自分で拭くため、「介助されていない」とした。立位が不安定なときがあるため、その時は職員が体を支えている。

(2-9) ブラシは洗面台に置いており、洗顔したときに自分で整髪している。

(2-10) 動きが悪いので、職員が衣類を被せたり肩から掛けたり介助を行うが、袖に手を通す協力動作はあるため、「一部介助」とした。

(2-11) 職員が足元でズボンを広げても足を通すことはできず、職員が足首をつかんでズボンに足を通しており協力動作もできない。引き上げともに介助が必要と聞き取り、「全介助」をした。

(2-12) 週 2 回外来リハビリへ病院の送迎で通う。月 1 回娘の送迎を受けて病院を受診し、帰りに買い物や外食をし帰宅する。いずれも車いす介助で移動する。

### 3 認知機能に関連する項目についての特記事項

3-1 意思の伝達, 3-2 毎日の日課を理解, 3-3 生年月日を言う, 3-4 短期記憶, 3-5 自分の名前を言う, 3-6 今の季節を理解, 3-7 場所の理解, 3-8 徘徊, 3-9 外出して戻れない

(3-1) 調査時は声が低く小さく聞き取りにくかったものの、ゆっくりと全ての質問に適切な返答があり意思の伝達はできていた。日頃も自分の言いたいことを言うことができると聞き取り「できる」とした。

(3-2) 起床・食事・就寝時間を答えた。日頃も日課の理解はできていると職員から聞き取り、「できる」とした。

(3-3・3-5～3-7) 正答。

(3-4) 訪問直前はテレビを見ており、正答だった。日頃も短期記憶は問題ないと職員から聞き取り、「できる」とした。調査時は、数時間前に食べた朝食の献立まで答えることができた。

(3-8・3-9) 該当する行動はない。

### 4 精神・行動障害に関連する項目についての特記事項

4-1 被害的, 4-2 作話, 4-3 感情が不安定, 4-4 昼夜逆転, 4-5 同じ話をする, 4-6 大声を出す, 4-7 介護に抵抗, 4-8 落ち着きなし, 4-9 一人で出たがる, 4-10 収集癖, 4-11 物や衣類を壊す, 4-12 ひどい物忘れ, 4-13 独り言・独り笑い, 4-14 自分勝手に行動する, 4-15 話がまとまらない

(4-1・4-2) 「パンツが汚いのは、誰かが穿いていたからだ」「ズボンをあの人に盗まれた」等と事実と異なる被害妄想を言うことがある。

(4-3～4-6・4-8～4-15) 該当する行為はないと職員から聞き取る。

(4-7) 自分の体調や子どものことなどで不安に思ったり悩んでいるときは、介助しようとする職員に暴力（手をたたく、足をける等）を振るったり、他の入所者に暴言を吐いたりする。

### 5 社会生活への適応に関連する項目についての特記事項

5-1 薬の内服, 5-2 金銭の管理, 5-3 日常の意思決定, 5-4 集団への不適応, 5-5 買い物, 5-6 簡単な調理

(5-1) 精神状態が不安定なため、職員が内服を管理している。こぼすため、薬と水の用意から口に入れるところまで介助を行っており、「全介助」とした。たいていの場合は、水は自分で飲む。

(5-2) すべての金銭管理は娘が行っており、「全介助」とした。ただし、簡単な計算はできる。

(5-3) 日課や季節の理解はあり、日常生活のできる部分は自分で行う。精神状態が不安定で医師の治療方針の合意等には家族の指示や支援が必要なため、「特別な場合を除いてできる」とした。

(5-5) 入所中であり、すべての食材や日用品は職員・家族が購入している。ここ1週間に1回「パンを買ってきて」と依頼があったが、食事が入らなくなるので説得して購入しなかった。

(5-6) 入所中であり、すべて職員が炊飯・調理したものを摂取する。

### 6 特別な医療についての特記事項

6 特別な医療

特記する事項なし。

### 7 日常生活自立度に関連する項目についての特記事項

7-1 障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）, 7-2 認知症高齢者の日常生活自立度

(7-1) 日常生活は部分的に介助が必要であるが、つかまりながら歩行で移動できる。介護者の付き添いを受け外来リハビリに通っており頻回な外出ができることから「A1」とした。

(7-2) 精神状態が不安定で時々被害妄想があったり管理面に介助を受けるが、意思の疎通ははかれ、概ねの理解力は保たれており、短期記憶の低下もないことから「I」とした。